となります。Cの位置はまだ分かりません。

C　不確実なものが確実なものの基礎である。哲学者は自己のうちに懐疑が生きている限り哲学し、物を書く。

「具体」と「抽象」に注目！

Bには「パスカル」、Cには「哲学者」とあります。

パスカルは哲学者ですから、「哲学者」が「パスカル」を意味していることは分かります。

そして、先述のように「抽象」が「具体」の前にあるのが優れた論理的な文章ですから、

「哲学者」のあるCが「パスカル」のあるBよりも前になる

ことが分かります。ですので、

【正解】C→B→A→D

C　**不確実なもの**が確実なものの基礎である。哲学者は自己のうちに懐疑が生きている限り哲学し、物を書く。

B　もとより彼は**不確実なもののため**に働くのではない。——「ひとは**不確実なもののために**働く」、とパスカルは書いている。

A　けれども正確にいうと、ひとは**不確実なもののために**働くのでなく、むしろ**不確実なものから**働くのである。

D　そしてひとは**不確実なものから**働くというところから、あらゆる形成作用の根抵（こんてい）に賭（かけ）があるといわれ得る。

となります。

例題

（2）次の空欄に当てはまる語として最も適切なものを次から選べ

そのメロディーは私の心の（　　）に触れたのか、涙がとめどなくあふれ出した。

1　情緒

2　深奥

3　根底

4　琴線

5　奥底

1　情緒（じょうちょ）→さまざまの微妙な感情。それを起こす特殊な雰囲気
2　深奥（しんおう）→感じ入るほど奥が深いようす
3　根底（こんてい）→土台をなす、深い底の部分
4　琴線（きんせん）→心の奥底の心情・秘められた感情
5　奥底（おくそこ）→奥の底

なので、**正解は４**です。

例題

（3）次の空欄に当てはまる語として最も適切なものを次から選べ

我々のチームは会議で一度は（　　）に立ったが、その後、彼のひと言で逆転した。

1　議長

2　壇上

3　報復

4　傍観

5　守勢

1　議長→会議・議事の進行を行う人

となりますので、正解は５です。

大学生が日常では使わないような難解単語の使い方が出題されますので、いきなり面食らわないように準備しましょう。

記入問題にも挑戦

次は選択肢問題ではなく、記入問題では語彙力をさらに試されます。

例題

下線部の意味を持ち、（　　　）にあてはまる二字の漢字を回答欄に記入しなさい。

（1）表現、行動等がいろいろなことを暗示していること
先生の意見は、いつも（　　）に富んでいる。

正解　機知（きち）

例題

下線部の意味を持ち、（　　　）にあてはまる二字の漢字を回答欄に記入しなさい。

（2）聞く価値があること
彼の意見は（　　）に値する

正解　傾聴（けいちょう）

例題

下線部の意味を持ち、（　　　）にあてはまる二字の漢字を回答欄に記入しなさい。

（3）立派なこと
毎朝、早朝からゴミ拾いをするなんて（　　）な若者だ

正解　歓心（かんしん）

例題

下線部の意味を持ち、（　　　）にあてはまる二字の漢字を回答欄に記入しなさい。

（4）将来の事柄について見通す力や見識の力量などがあること
その技術には（　　）性がある

正解　先見（せんけん）

例題

下線部の意味を持ち、（　　　）にあてはまる二字の漢字を回答欄に記入しなさい。

（5）気にかかって不安に思うこと
行方不明になっている女児の安否が（　　）されている

正解　懸念（けねん）

例題

下線部の意味を持ち、（　　　）にあてはまる二字の漢字を回答欄に記入しなさい。

（6）すっかり終わること
任期（　　）に伴い、衆議院議員選挙が実施された

正解　満了

例題

下線部の意味を持ち、（　　　）にあてはまる二字の漢字を回答欄に記入しなさい。

（7）混乱した状態をうまく収めること
彼に事態の（　　）を依頼した

正解　収拾

例題

下線部の意味を持ち、（　　　）にあてはまる二字の漢字を回答欄に記入しなさい。

（8）物事の影響が次第に広がり伝わること
日中経済戦争の効果が全世界に（　　）する。

正解　波及

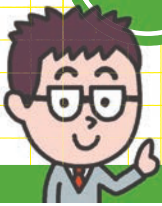
記述式なので、選択肢式よりも考える時間や迷う時間が増えて、だいぶ思考力が消耗しますし、選択肢ではないので、当然に正答率が下がりますから、しっかりとした語彙力対策が必要です。

「単語の問題」で難しい「対語」「類義語」問題

以下の「対語」「類義語」の問題は、選択肢の並べ方が絶妙で、やはり読む力を試されます。

例題

次のＡ～Ｄの対には、ある対応関係がある。これらの中で同じ対応関係であるものはどれとどれか。選択肢から１つ選びなさい。



1 数的論理と数式作成

数式よりも図を描いて考えてみよう

「非言語分野の問題」の最初は「数的論理と数式作成」です。どのような問題が出るのか？　早速例題を見てみましょう。

例題

（　　　）に当てはまる数値を、整数または少数で回答欄に記入しなさい。

（1）1～5の異なる数字が書かれた箱が5つあり、そのうち4つには5gのおもり、1つには7gのおもりが箱の番号の数だけ入っている。すべての箱について、その箱からおもりをすべて取り出したとき、取り出した15個のおもりの合計は81gだったとすると、7gのおもりは（　　）の数字が書かれた箱に入っていた。

（2）ある人が270㎞先の町に、自動車を運転していくことにした。時速60㎞で、途中に休憩時間を取り、全部で7.5時間かかったとしたとき、休憩時間は（　　）分だった。

（3）ある大学の入学試験に合格した人は、受験者全員の4分の1よりも4人少なかった。合格しなかった人は全受験者の9分の7よりも17人少なかった。この大学入学試験の受験者総数は（　　）人である。

「文章を読んでも頭に入ってこない……」と悩める声が聞こえてきそうです。繰り返し読んで、さらに頭が混乱してしまう人も多いでしょう。そんなときは、**「考える前に図を描く」ことが突破口になります！**

ポイント1 ▶ 問題をよく読もう

では、（1）から解説をします。

例題

（　　　）に当てはまる数値を、整数または少数で回答欄に記入しなさい。

（1）1～5の異なる数字が書かれた箱が5つあり、そのうち4つには5gのおもり、１つには7gのおもりが箱の番号の数だけ入っている。すべての箱について、その箱からおもりをすべて取り出したとき、取り出した15個のおもりの合計は81gだったとすると、7gのおもりは（　　）の数字が書かれた箱に入っていた。

数値で理解するよりも図で理解する方が早く事態を理解できます。そして、ここで**神ワザ**を使います。

あてはめ法

1～5の異なる数字が書かれた箱が５つあり……おもりが箱の番号の数だけ入っている。

箱の中に２種類のおもりが入っているが、どちらだか分からない。

こういう場合は、全部がどちらか一方であるとあてはめると早く答えが見つかります。

そこで全部が５gとあてはめます。するとそれぞれの箱には、次のように５gのおもりが入っていることになりますので、次のような図が描けます。

この記述から、７gは１つの箱にしか入っていない。

個数は「箱の番号と同じ」という情報を見つけて７gは３個、３番の箱に入っている。として正解３を選べます。

このように上級者は、問題のどの部分に必要事項が記載されているかを即座に見抜いて解いていきます。

（1）1～5の異なる数字が書かれた箱が5つあり、そのうち**4つには5gのおもり、１つには7gのおもりが箱の番号の数だけ入っている**。すべての箱について、その箱からおもりをすべて取り出したとき、取り出した**15個のおもりの合計は81g**だったとすると、7gのおもりは（　　）の数字が書かれた箱に入っていた。

上記の**「4つには5gのおもり、」**のように、重要な情報は「行の最後から次の行の最初」に記載されることが多いのです。

それは、日本人が横書きの文を読む際に、行の最後と最初で読み間違いをすることが多いからだと考えられます。

これは公務員試験や他の能力試験でも、受験者の注意力を試す技術として用いられることが多いです。

計算問題では、行の最後の部分と次の最初の部分に重要な情報が書いてあることが多いので､そこを目印にして条件を確認するようにしましょう。

このときI＋E＝13ですが、残りの数字は1,4,7,10,11,15ですので、これは不可能。よってPは12でもありません。

つまりPは11となります。C＋P＝18、D＋P＝21ですので、Cは7、Dは10です。

これを表に書き入れると

I	M	14	A
E	B	7	L
8	10	11	5
13	3	2	16

このとき、I+E＝13、A+L＝13なので、(I,E)(A,L)の組み合わせで可能性があるのは、(1,12)(4,9)、(1,12)(9,4)、(12,1)(4,9)、(12,1)(9,4)です。なので必然的に残りの**MとBは6と15もしくは15と6**となります。Mが6だとA+I＝14ですが、残りの数字が1,4,9,12,15なので不可能です。Mが15であればA＋I=5なので、(A，I)は(1,4)もしくは(4,1)です。よって**Mは15**で、**Bが6**となります。

このときAを4とするとLが9。するとE＋6＋7＋9＝34なのでE＝12になりI＝1となります。

Aを1とするとLが12。するとE＋6＋7＋12=34なのでE＝9になりI＝4となります。

こうして**A=4**、**B=6**または、**A=1**、**B=6**となり、問われているA、Bのカードの数字の和で選択肢にあるのは**①10**ということになります。

さて、**18㎞/時で走ると、**

上り坂は、18÷3＝6時間
平坦な道は、18÷9＝2時間
下り坂は、18÷18＝1時間

かかることになります。

よって、全体を進むのに必要な時間は、**6＋2＋1＝9時間**です。
全体の距離は、**18㎞×3＝54㎞**です。
なので、平均時速は、**54÷9時間＝6㎞/時**となります。

ちなみに未知数xを使って解くとどうなるでしょう。
「登り坂」「平坦な道」「下り坂」のどの道も長さを$x$kmと仮定すると、

上り坂にかかる時間は、$\frac{x}{3}$時間
平坦な道にかかる時間は、$\frac{x}{9}$時間
下り坂にかかる時間は、$\frac{x}{18}$時間

かかることになります。全体を進むのに必要な時間は、
$\frac{x}{3}+\frac{x}{9}+\frac{x}{18}=\frac{9x}{18}=\frac{x}{2}$時間です。
全体の距離は、$x$km ×3＝3$x$kmです。

つまり、平均時速は3$x$km ÷$\frac{x}{2}$時間=$3x\times\frac{2}{x}$=6km／時となります。

18kmと置いても、$x$kmと置いても同じですが、**18㎞と置いた方が計算が楽**ですね。

平均点を求める問題

次の問題は、テクニックが要ります。

例題

（　　　）に当てはまる数値を、整数または小数で回答欄に記入しなさい。

（3－2）ある高校のクラスの数学の試験の平均点が55点、男子の平均が50点で、女子の平均が65点の場合、男子と女子の比は（　　）である。

クラス全体の平均点は、

{(男子の人数×男子の平均点)＋(女子の人数×女子の平均点)}÷クラス全員の人数

で求まります。

男子の数をx、女子の数をyとすれば、試験の点の総計より、

$50x+65y=55(x+y)$

$\Rightarrow 5x=10y$

$\Rightarrow x=2y$

これから、**男子：女子＝2：1**と分かります。

例題

（　　　）に当てはまる数値を、整数または小数で回答欄に記入しなさい。

（3－3）ある試験で合格率は40％であり、受験者全員の平均点は60点であった。合格者の平均点は合格最低点より15点高く、不合格者の平均点は合格最低点より20点低かった。合格最低点は（　　）点である。

合格最低点をxとすると、合格者の平均点は$x+15$

不合格者の平均点は$x-20$

受験者全員の平均点は60点であった。

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="4">会社</th><th rowspan="2">合計
(%)</th></tr>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr>
<tr><td rowspan="6">通勤手段</td><td>電車 (%)</td><td>**20**</td><td>20</td><td>30</td><td>50</td><td></td></tr>
<tr><td>バス (%)</td><td>20</td><td>30</td><td>**20**</td><td>10</td><td>22</td></tr>
<tr><td>自家用車 (%)</td><td>60</td><td>**35**</td><td>10</td><td>30</td><td></td></tr>
<tr><td>その他 (%)</td><td>0</td><td>15</td><td>40</td><td>**10**</td><td></td></tr>
<tr><td>合計 (%)</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td></tr>
<tr><td>人数 (人)</td><td>250</td><td>300</td><td>350</td><td>100</td><td>1000</td></tr>
</table>

これでC社で「バス」と回答した人は、C社の20%（100−30−10−40）と分かります。よって、C社で「バス」と回答した人は、350（人）×20（%）＝350（人）×0.2＝**70（人）**です。

次は、自家用車と回答した人のA、B、C、Dの合計を求めて、それが全体の何%になるかを計算します。

ここでは自家用車と回答した「人数」を求めて、その「人数」の「全体の1000人」に対する割合を求めればいいでしょう。

空欄がすべて埋めてあるので、**%を人数に計算**します。

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="4">会社</th><th rowspan="2">合計
(%)</th></tr>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr>
<tr><td rowspan="6">通勤手段</td><td>電車 (%)</td><td>20</td><td>20</td><td>30</td><td>50</td><td></td></tr>
<tr><td>バス (%)</td><td>20</td><td>30</td><td>20</td><td>10</td><td>22</td></tr>
<tr><td>自家用車 (%)</td><td>**60**</td><td>**35**</td><td>**10**</td><td>**30**</td><td></td></tr>
<tr><td>その他 (%)</td><td>0</td><td>15</td><td>40</td><td>10</td><td></td></tr>
<tr><td>合計 (%)</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td></tr>
<tr><td>人数 (人)</td><td>250</td><td>300</td><td>350</td><td>100</td><td>1000</td></tr>
</table>

自家用車の欄は指数（%）ですから、これに最下段の人数を掛ければ自家用車の人数が計算できます。

解説なので、解答に必要のない部分も記入しています。
本番では必要な部分だけ計算すればいいです。

電車だけを使っている男性は、電車を使っている男性（70％）から両方を使用している男性（20％）を引いた50（％）です。

人数は全部で550人ですから、その50％（半分）は**275人**となります。

次に（2）です。
こちらは、**両方使用**の男性と女性の差が10人であることから、女性の人数を計算します。

まず、男性の**両方使用**の人数を計算します。
男性の両方使用は男性全体の20％ですので、**110人（550×0.2＝110人）**となります。

電車と電車以外の両方を使う人は、男性が女性より10人多い

ので、**「電車と電車以外の両方を使う女性」**は
110−10＝100人となります。

これで**女性の両方使用が女性全体の10％**で、それが**100人**であることが分かります。

これから**女性全体の人数が1,000人（100÷0.1＝1,000人）**と分かります。

男性全体が550人、女性全体が1,000人なので**A社の社員数は1,550人**と分かります。参考までに表に記入しておきます。

①最初に並べた列で使う100円玉の数は、xの平方数x^2枚で、1500円余るから、100円玉の数は全部でx^2+15枚。

②１列増やしたときに使う100円玉の数は（$x+1)^2$枚ですが、2000円足りなくなるので、100円玉の数は全部で（$x+1)^2-20$枚。

この①と②は同数なので、

$$x^2+15=(x+1)^2-20$$

という式を作れば正解が求まります。

$(x+a)^2=x^2+2ax+a^2$という公式を覚えていれば、

$$x^2+15=(x+1)^2-20$$

$$x^2+15=x^2+2x+1-20$$

両辺からx^2を消去して、

$$15=2x-19$$

$$34=2x$$

$$x=17$$

以上で**最初に100円玉がx^2+15枚＝17×17＋15枚＝304枚あった**ことが分かり、**30400円**持っていることになります。

似た問題に挑戦

ここで（２）に、似た問題をやってみましょう。

例題

（　　　）に当てはまる数値を、整数または少数で回答欄に記入しなさい。

（２－１）1円から100円の硬貨のうち、15枚の硬貨があり、合計で150円である。このとき、5、10、50、100円硬貨のいずれかのみ、1枚も入っていないとすれば、5円硬貨は（　　）枚入っている。

この問題では、**5、10、50、100円硬貨のいずれかのみ、１枚も入っ**

	清掃（3人）		介護（4人）	
	中学生	高校生	中学生	高校生
①	1人	2人	3人	1人
②	2人	1人	2人	2人

以上で**「チームの別れ方」は①、②の2通り**となります。
ここで正解を2と記入してもいいでしょう。

「誰が清掃をするか」ということを考えなければ「チームの別れ方」は2通りしかないことになります。

しかし、**「どの中学生が清掃を担当するか」を考慮するのも「別れ方」に含まれる**と考えれば、次のように計算することになります。

①の別れ方について中学生（A・B・C・D）の別れ方は、
4人から1人を選ぶ選び方は**4通り**（1人が清掃になれば残りが介護になるから）。
高校生（E・F・G）の別れ方は、3人から2人を選ぶ選び方で**3通り**（2人が清掃になれば残り1人が介護になるから、3人から1人を選ぶのと同じ）。
以上から、3×4＝**12通り**

②の別れ方について中学生（A・B・C・D）の別れ方は、4人から2人を選ぶ選び方で、AB・AC・AD・BC・BD・CDの**6通り**。
高校生（E・F・G）の別れ方は、3人から1人を選ぶ選び方なので、**3通り**。
以上から、3×6＝**18通り**

①と②は同時に起こらないので、①②の和が答えとなり**30通り**です。

この問題では「別れ方」の定義が決まっていないので、二つの正解があると考えていいでしょう。

例題

（　　　）に当てはまる数値を、整数または小数で回答欄に記入しなさい。

（3－1）社員55人にテニスとサッカーのスポーツ経験についてアンケートを取ったところ、テニスをしたことがある人が28人、したことがない人が27人、サッカーをしたことがある人が16人、したことがない人が39人だった。また、両方の経験がある人が 9人だった。両方ともしたことがない人は（　　　）人だった。

まず、社員を分類すると、

①両方の経験がある
②テニスの経験だけがある
③サッカーの経験だけがある
④両方ともない

となり、①〜④の合計が55人となります。ここで、

テニスをしたことがある人が28人、……両方の経験がある人が9人だった。

より、
②テニスの経験だけがある人は28－9＝19人

同様に

サッカーをしたことがある人が16人、……両方の経験がある人が9人

より
③サッカーの経験だけがある人は16－9＝7人
となります。これから、

①両方の経験がある　　　　　9人
②テニスの経験だけがある　　19人
③サッカーの経験だけがある　7人

となり①～④の合計が55人ですから、
④両方ともない、は55－（9＋19＋7）＝55－35＝20人
となります。**正解は20人**です。

似たタイプの問題をもう一問やってみましょう。

例題

（　　　）に当てはまる数値を、整数または少数で回答欄に記入しなさい。

（3－2）社員45人にテニスとサッカーのスポーツ経験についてアンケートを取ったところ、テニスをしたことがある人が26人、したことがない人が19人、サッカーをしたことがある人が29人、したことがない人が16人だった。サッカーだけをしたことがある人数が12人の場合。テニスだけをしたことがある人は（　　　）人だった。

前の問題と同じように考えてみましょう。

サッカーをしたことがある人が29人、……サッカーだけをしたことがある人数が12人

より、
①両方の経験がある、は29人―12人＝17人
となります。

テニスをしたことがある人が26人

と、①両方の経験がある＝17人より、
②テニスの経験だけがあるは26－17＝9人となります。

生徒の人数は20名ですので、**3科目とも得意な人の人数は、1科目でも不得意と言った人の人数を20人から引いた数**です。

ここで、

1科目でも不得意と言った人数の最大値が分かれば、3科目が得意な人数の最小値が分かる。

英語が不得意な人と、数学が不得意な人、国語が不得意な人に全く重なりがないなら、３科目が得意な人数は最小になります。

つまり、**不得意と言った人全員が１科目だけ不得意なら、３科目得意な人は最小になる**。

したがって**「得意と答えなかった」人の人数を全て加えた2＋5＋3＝10人が不得意な人の人数の最大値**となります。

よって、生徒人数20人から10人を引いた10人が「3科目得意な人」の最小値となるので、**正解は10人**です。

最後にもう１問やってみましょう。

例題

（　　　）に当てはまる数値を、整数または小数で回答欄に記入しなさい。

(3−7)　あるクラスの50人の生徒について、国語が好きな生徒は42人、数学が好きな生徒は36人、英語が好きな生徒は35人、社会が好きな生徒が41人いることがわかっている。このとき、4科目すべて好きな生徒の最小人数として、正しいのはどれか。

最少人数を求める問題ですので、嫌いな人数（「好きではない人数」）を求めます。

内容を整理すると、

国語が好きでない生徒50−42＝8人

数学が好きでない生徒50−36＝14人

英語が好きでない生徒50－35＝15人
社会が好きでない生徒50－41＝9人

この各々の人数に**重なりがないとすると、4科目が好きな人数は最少人数**になります。

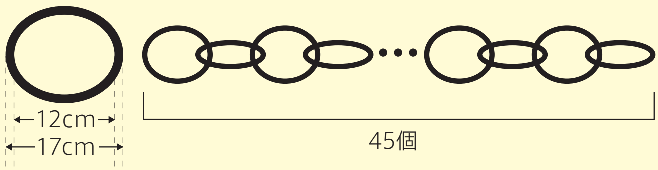
その場合の、「好きでない人数」を合計すると8＋14＋15＋9＝46人となり、**すべてを好きな生徒の最少人数は50－46＝4人**となります。

ラストは一番時間がかかる問題を

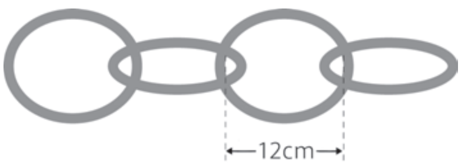
最後に一番時間がかかりそうな（1）です。

例題
（　　　）に当てはまる数値を、整数または小数で回答欄に記入しなさい。

（1）外側の幅が17cm、内側の幅が12cmの楕円、45個、下図のように鎖状につなげた。これをまっすぐ伸ばした時の全体の長さは（　　）cmになる。



楕円と楕円の重なりに惑わされないで、反復する長さを求めます。



反復する部分は上の図のようになります。反復する長さは楕円の内径12cmとなります。楕円をつなげた場合、**両端だけ異なる長さ**になります。

	1回目	2回目	3回目
花子	グーで勝ち	チョキで勝ち	**グーで負け**
花子の位置	3	9	**9**
太郎	敗け	敗け	パーで勝ち
太郎の位置	0	0	5
花子のリード			4

3回目で太郎が勝ったあと花子は4マスしかリードしていないので、4が正解だと分かります。

一応、4を確認します。

4　チョキ⇒パー⇒**パー⇒チョキ**

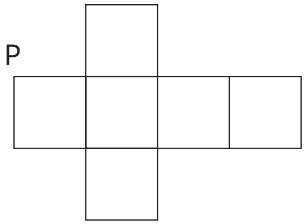
	1回目	2回目	3回目
花子	チョキで勝ち	パーで勝ち	**パーで負け**
花子の位置	6	11	**11**
太郎	敗け	敗け	チョキで勝ち
太郎の位置	0	0	6
花子のリード			5

上の表のように、花子が太郎を5マスリードしているので、1は正解ではない。したがってたしかに4が正解です。

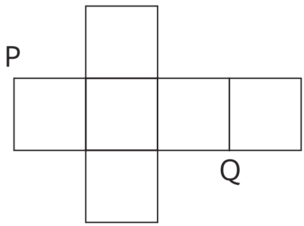
では、次の類題をやってみましょう。

ポイント2 ▶ 最短距離を確認する

この図ではPは左端の正方形の上左角にあることになります。

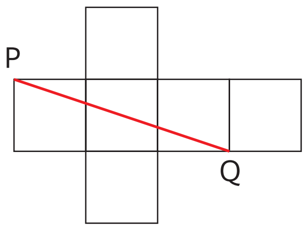


次にQはPから右に３枚目にある正方形の右下角にあることが分かります。



ＰとＱを直線で結ぶと最短距離になります。

図①



このように、ＰとＱが一直線になると最短距離になります。

次は、**選択肢の展開図を変形させて、図①のようになるかどうか**を検証します。

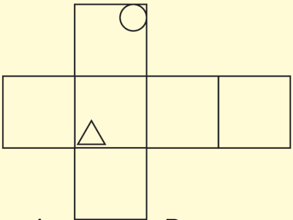
立体図形レベルアップ！

さて下記のような難しい問題にもチャレンジしましょう。

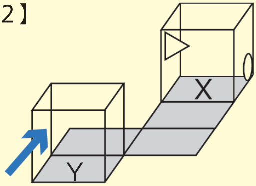
例題

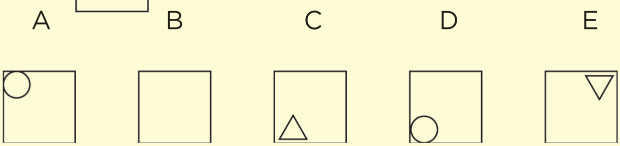
（2）【図1】の展開図を組み立てて立方体を作り、【図2】のマス目をなぞるように、Xのマス目からYのマス目まで一面ずつ転がしていく。Yのマス目にとまったときに、真上にある面を矢印の方向から見たときの図として適切なものを選びなさい。

【図1】



【図2】





○ A

○ B

○ C

○ D

○ E

まず、上下のある図形（△）に注目します。

ブラックボックステスト

問題文をよく読もう！！

さて「非言語分野の問題」のラストは「ブラックボックステスト」です。早速下記の問題を見てください。

例題

アルファベット（A、B……）は、与えられた図形に対して、ある操作をすることを意味する。異なるアルファベットはすべて異なる操作である。また、操作は矢印に沿った順序で行い、異なる色の矢印には進めないとする。

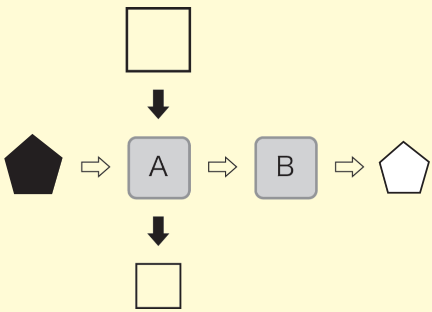
例：A、Bの操作が、

ア　図形を小さくする

イ　図形を白くする

のいずれかであるとすると、

Aの操作はア、Bの操作はイである。



DUK⇒DAK⇒DIK
（イ）　（ア）

したがって、「イ」が「ア」より先でなければなりません。

ここでDは「ウ」ですので、A、D、Eは「イ⇒ウ⇒ア」となり選択肢1は正しいことが分かります。

以上から**正解は1のみ**です。

ちなみにヨコの操作を検討してみると

KAD ⇨ B ⇨ C ⇨ D ⇨ LAN

「K」の操作は「ウ　KとNを互いに置き換える」だけ
「D」の操作は「エ　LとDを互いに置き換える」だけ
なので、この操作を「KAD」に適用すると、KAD⇒NALとなります。しかし操作の最後は「LAN」ですから、

オ　文字列中の1文字目と3文字目を入れ替える

が必要になります。以上からヨコの操作は「ウ、エ、オ」の3つと決まります。

ただ、この3つの操作は、順番をそれぞれ入れ替えても同じ結果になりますので、もしDがウであることが分からないとすると次の6通りになります。

	B	C	D	
KAD	ウ　NAD	エ　NAL	オ　LAN	LAN
KAD	ウ　NAD	オ　DAN	エ　LAN	LAN
KAD	エ　KAL	ウ　NAL	オ　LAN	LAN
KAD	エ　KAL	オ　LAK	ウ　LAN	LAN
KAD	オ　DAK	ウ　DAN	エ　LAN	LAN
KAD	オ　DAK	エ　LAK	ウ　LAN	LAN

これだけの場合分けを考えるのは大変ですね。

この問題は選択肢から考える**「あてはめ」**が最良の解法と言えるでしょう。